

一般演題 (第16群) 女性の健康支援

座長: 小笹 由香 (東京医科歯科大学生命倫理研究センター)

P-90

既婚男女における避妊関連行動の実態調査

○前田隆子 池田智子 鈴木康江
鳥取大学 医学部 保健学科

【緒言】

近年、若年の人工妊娠中絶率に関心が高まっているが、成人期でも問題がある。そこで本調査の目的は既婚の「妊娠を計画していない」男女における避妊状況を明らかにし、人工妊娠中絶率低下に向けた対策の資料とすることである。

【方法】

対象は20-49歳の既婚男女(男性812名、女性812名)で、方法は質問紙調査を、県内の了解の得られた事業所で直接配布し、回収は郵送で、平成21年10月1~31日に実施した。倫理的配慮: 学内倫理審査の承認後、協力は自由意志でよい旨を文書にし、説明して手渡した。回収率は男性30%、女性34.9%であったが、既に子どもがあり「1年以上妊娠を計画していない」とした者(男性196名、女性226名)を分析対象とした。調査内容は家族計画、性行動、避妊、性に関する意識、配偶者との関係等である。

【結果】

対象者の年齢は、男性では、 37.4 ± 6.1 歳、女性では、 36.8 ± 4.3 歳で、子ども数は1人53名、2人239名、3人109名、4人23名であった。この1年間の避妊状況は、「いつもしている」37%、「時々」16.2%、「しない」26.9%、「セックスをしていない」19.5%であった。避妊しなかった理由は、男性、女性共に「子どもができてかまわない」、「大丈夫な日を選んで」が上位であった。次いで男性では「気分が盛り上がっていた」、「性感を損なう」「わずらわしい」等で、女性では「妊娠しない」、「避妊具がなかった」「相手が嫌がる」「避妊を言い出せない」等であった。予定外の妊娠をした場合の対処については、男性「産んでほしい」74.6%、女性「産む」72.5%で、その他は「分からない」「中絶する」であり、有意な男女差はみられなかった。避妊についての話し合いは、「している」19.0%、「ほとんど無い」46.9%、「全く無い」33.4%であった。

【考察】

妊娠を積極的には望んでいないのに避妊しない背景には、「子どもができてかまわない」という思い、ならびに「大丈夫な日」という曖昧な判断、男性では負担感、女性では準備や相手との関係で避妊できない事情など多様な因子が考えられる。男性側の負担感、女性側の「言い出せない」では、女性が使用できる方法の修得が求められる。夫婦間の話し合いがない場合は、夫婦を対象にした話し合いのきっかけづくり、事情に応じた多様な支援が必要となる。

【結論】

既婚者の調査で、妊娠を計画中ではないのに、避妊を「時々」あるいは「しない」とした者が43%で、望まない妊娠の可能性が潜在している。避妊しない理由は次子の予定、曖昧な判断、男女の違い、関係性等の影響が推察された。